

浮島のうた

作詩：沼津市立浮島中学校の生徒たち+田中章義

作曲：白井貴子

湧き水が豊かにあふれる浮島の
空を仰げばツバメ飛び
大地を見れば富士が在り
ナヨナヨワスレナグサ咲き
サワトラノオの花ひらく



ナヨナヨワスレナグサ

世界でひとつのこの土地に
はる・なつ・あき・ふゆ 過ぎしゆけば
伸びるは植物のみならず
数多（あまた）の生命（いのち） 芽吹きゆく



サワトラノオ

棕（むく）の木が 成長見守る 浮島は
茶の葉の薫る風が吹き
ノウルシが町を飾りゆく
ドジョウもハヤも泳ぎ居（い）て
アオサギ、カルガモ 羽（はね）広げ



駒止の棕

世界でひとつのこの土地で
仲間と今日も 笑いあえば
歌うは人間のみならず
そよ風も 花々（はな）も 謡（うた）い出す

自然豊かな浮島は
時代を超えた宝箱
いついつまでも実りあれ
みんなみんなに実りあれ



CDジャケット

湧き水が豊かにあふれる浮島の
遙かなる永遠のうた



ノウルシ群落

「浮島のうた」誕生の歴史

浮島は、昔から多くの歌人が訪れ、時代を越えて短歌が詠み継がれてきたところです。代表歌に「富士の嶺に めなれの雪の つもり来て おのれ時しる 浮島が原」（藤原定家）などがあります。

当時の浮島中学校では、絶滅危惧種の「ノウルシ」や、浮島固有種とされる「ナヨナヨワスレナグサ」など希少植物の群生地でもある浮島の魅力を、全国へ発信するプロジェクトに取り組んでいました。



その一環として、2012年（平成24年）6月に静岡市出身の歌人「田中章義先生」を講師に招き、全校生徒が「浮島（サワトラノオ）



島の自然、歴史、風土」などを題材にして、短歌を詠むことに取り組み始めました。

また、浮島の環境保全や街づくりにご活躍されている、西井出にお住まいの「鈴木昌宙先生」には、浮島の自然や歴史についての講演の他、浮島沼周辺のフィールドワークも行って頂きました。

そんな中、2012年（平成24年）12月、田中章義先生は、それぞれの生徒が詠んだ短歌をもとにして、一つの詩に束ねて下さりました。ここに「浮島のうた」が産声をあげたのです。

さらに、田中章義先生の知人で、ともに国際協力や環境問題などに取り組んできたミュージシャンの「白井貴子さん」に作曲をお願いして「浮島のうた」が完成しました。

年が明けて、2013年（平成25年）2月25日には、白井貴子さんが歌の指導のために、ご来校頂いた記録も残っています。3月13日には体育館でCD用の録音が行われ、そこにも白井貴子さんは指導のためにお越し下さっています。そして、3月18日の卒業式当日には、田中章義先生、白井貴子さん両名が駆けつけ、お祝いの言葉を頂いています。（卒業式の田中・白井両氏と奥村校長）↑



当時の奥村篤校長（現沼津市教育長）は「今の生徒たちが親になり、その子と親子で歌えるよう、地域に長く愛される歌になれば。」と仰っていました。

しかし、ここ数年、新型コロナウイルス感染症により歌うことが制限され、「浮島のうた」も歌えない状況が長く続きました。「浮島のうた」を3年間満足に歌わずして卒業した学年もありました。それでも「浮島のうた」は本校下校時の音楽として、1日も欠かすこと無く、生徒たちの下校を見守りながら流れておりました。今年に入り感染症法上の位置付けが5類に移行したことにより、制限も解除され、棕駒祭文化の部の全校合唱の曲として復活いたしました。